

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		通常砂防		路河川名等	竹の沢川		
事業毎の通番		4	市町村名	岡谷市	箇所名(ふりがな)	長地(おさち)	
事業概要	事業目的	竹の沢川は土石流危険渓流Ⅰであり、流域内には不安定土砂が堆積し、倒木が多いことから豪雨時に土石流の発生が懸念されている。また、保全対象には人家が57戸立地しているほか、現在国道20号バイパス築造事業が進められているため、砂防堰堤を1基整備し、土砂災害を未然に防止する。					
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
	関連する事業、計画等						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家57戸、市道、市公園施設					
	着手年度	平成28年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	平成32年度	費用対効果	17.8	国庫	その他 県債 一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			270,000	135,000 0 121,500 13,500	
	年度事業内容(主な工種)	地形測量、地質調査、堰堤準備設計 1式			10,000	5,000 0 4,500 500	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土石流災害から人家57戸、市道、市公園施設を保全				
		間接的効果(定量的・定性的)					
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】 57戸 【保全対象公共施設】 市道、市公園施設 【要配慮者利用施設】 なし 【避難場所】 なし			評価	B	
	重要性	【災害履歴】 なし 【交通影響】 国道20号BPが通過予定 【位置付け】 地域防災計画上の位置付けあり			評価	B	
	効率性	【費用対効果】 17.8 【早期効果発現】 事業期間:5年間 【工法等比較検討】 堰堤配置、形式等について比較検討 【総合調整】 砂防指定地であり治山事業と調整済み			評価	A	
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱(火山噴出物) 【地域植生】 放置林が多い 【平均渓床勾配・土砂整備率】 勾配11.3° 整備率0% 【危険区域】 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域あり			評価	A	
	計画熟度	【情報共有】 岡谷市、地域住民と情報の共有化が図られている			評価	A	
		【地域要望】 岡谷市、地域住民から事業に対する要望が出されている 【合意形成】 事業目的について合意形成が図られている 【住民参加】 地域住民から要望が出されている					
部意見	当該渓流の保全対象には、人家57戸が立地しているほか、国道20号バイパスの築造事業が進められており、速やかな土砂災害対策が必要である。		行政改革課意見	流域内に不安定土砂が堆積している。保全対象には人家、市道があり、今後保全対象となる国道20号バイパス工事が進められていることから、緊急性が認められる。	評価結果	総合評価	○ B

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

位置図



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	竹の沢川では、過去に砂防事業を計画し地元説明を行った経過がある。当時は地元調整が整わず砂防事業を進めることができなかったが、現在は地元から砂防事業に対する熱心な要望がある。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	砂防事業に対する地元地域内での調整が整い、地元から強い要望を受けている。	
③事業説明等の経緯	平成14年度までに地元説明会を実施している。今後事業化の目途が立った段階で再度説明を行う予定である。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	竹の沢川流域には、「御柱用材」や「長持ち用材」を永続して供給する山林があり、山道は伝統文化の「御柱山出し」の曳行道となっているため、自然環境への影響を抑えることを念頭に砂防設備の設計を進める予定である。	
⑥地域活性化への影響と配慮	砂防事業により、地域住民の安全・安心を確保するとともに、災害のない地域づくりを推進し、地域の活性化を図る。	
⑦その他	砂防指定地	
事業代表地点の緯度経度		北緯:N 36° 05'13"
		東経:E 138° 04'09"